

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

# KEIWA

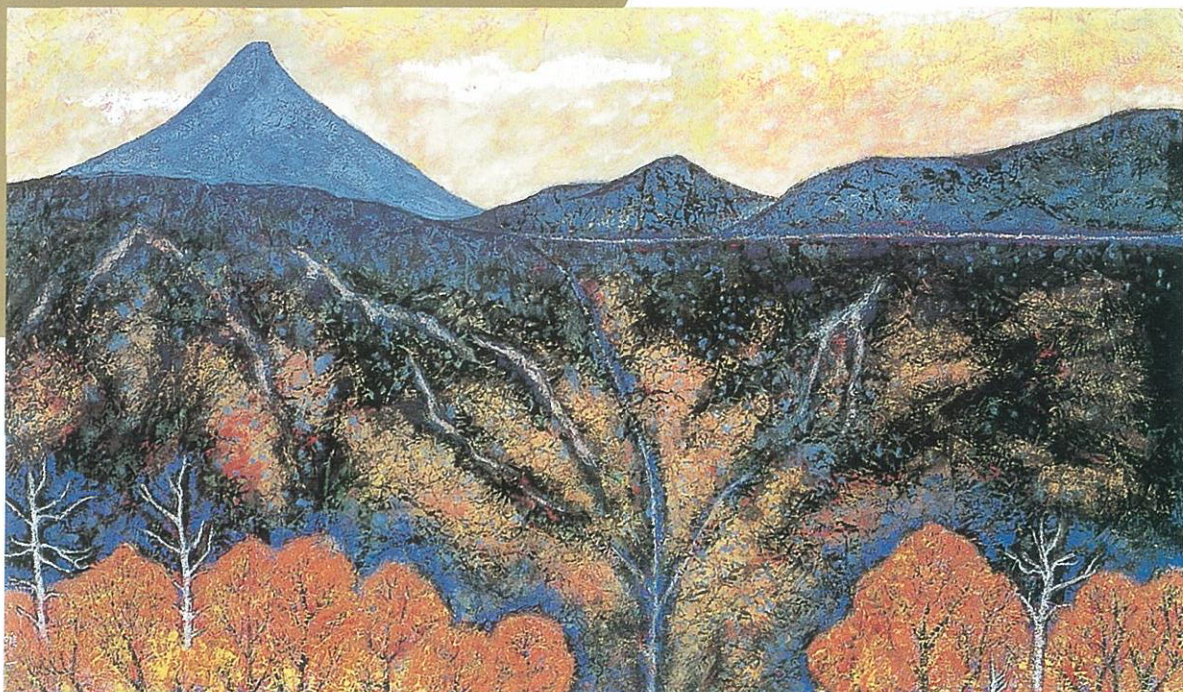
## COLLEGE REPORT



# 第24号

〈OCTOBER 2000〉

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP

## 生命倫理に期待する 石川喜一

### ボランティア実習を終えて 夏期短期留学レポート

教員として／ゼミ紹介／敬和学園大学と私  
クラブ紹介／ボランティア日誌／学長殿／訳書紹介  
学内スポーツ大会を終えて／豊栄市公開講座終了  
2001年度入試のご案内／オープンキャンパス報告  
敬和祭のご案内／創立10周年記念特別講演会のご案内  
ご挨拶と自己紹介／藤倉庄平事務局長退職  
図書館の新設コーナー／学会等出張  
学事予告／寄付者ご芳名

# 2000

9月30日(土)に新潟東映ホテルにおいて、2000年度保護者懇談会が開催されました。これは毎年三年次生保護者を対象に、学生の就職活動に対する大学としての取り組みや、現在の状況をご報告し、ご家族と大学がいっしょになって学生の就職支援をすることを目的に開かれているものです。

第一部(写真上)では、大海就職委員長や石田就職指導室長から、大学としての取り組みと現状報告があり、柴沼教職課程委員からは、「心豊かな英語教員に」と題し、委員会としての取り組みと、履修科目や指導の流れについて説明がありました。

また第二部(写真下)では、石井後援会長による乾杯のご発声の後、出席した19名の教員と保護者がなごやかな懇談の席をもち、予定時間を超過するほど活発な会話が交わされていました。



## もくじ

生命倫理に期待する 教員として	石川喜一……………1 田村晶子……………4	学内スポーツ大会を終えて……………8 豊栄市公開講座終了……………9
ゼミ紹介	松崎洋子……………4	2001年度入試のご案内……………10
敬和学園大学と私	品田千早……………5	オープンキャンパス報告……………11
ボランティア実習を終えて……………6		敬和祭のご案内……………11
ボランティア日誌	三星寛徳……………6	創立10周年記念特別講演会のご案内……………11
学長殿	山崎イツ……………7	ご挨拶と自己紹介 諸橋寛一郎……………12
訳書紹介	谷川敏朗……………7	藤倉庄平事務局長退職……………12
夏期短期留学レポート	三浦利治……………8 山田貴子……………9	図書館の新設コーナー……………13
		教員の学会等出張……………13
		学事予告・寄付者ご芳名……………13

<表紙> 安藤唯一「乗鞍風景」

(安藤司文 本学教授 父上 日曜画家 画集「表象を描く」から)

# 生命倫理に期待する

教授 石川喜一



## 二十世紀を振り返って

あと数カ月で二十一世紀を迎える。この二十世紀を振り返るとその変化の大きさに驚かされる。あまりにもマクロ的、かつ雑な話で恐縮だが、私の目には二十世紀は次のように写る。人類は宇宙に飛行して地球を宇宙から見る事ができるようになった。テレビで映し出される地球は生命の誕生した美しい惑星である。生命の素晴らしさ、貴重さに対する全世界的な共通認識が生じた。しかし、人類はその美しい惑星で、最強の生物として増殖を続け、自然を破壊し地球環境を変化させるに至っている。もし、映画「猿の惑星」で描かれたように、

人類にこれ程の知能が備わらなかつたらおそらく数千万人しか存在できなかつたであろう地球で、人類は六十億人を越えた。科学の進歩は留まるところを知らない。物理学の進歩は原子爆弾、コンピュータを生み出し、化学の進歩は石油をあらゆるものを生み出すことのできる魔法の水に変えた。生物学、生化学の進歩はDNA構造の解明から始まってクローン生物の作成まで可能にした。

しかし、科学の進歩で人類は幸福になったといえるのであろうか。ノーである。二十世紀は大量殺戮の世紀でもあった。第一次、第二次世界大戦をはじめ朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、民族紛争等であらゆる殺人の道具が使われた。人命は地球より重たいいわれながら、主義、主張のため、あるいは指導者、独裁者の単なる保身のため大量殺戮が続いている。のみならず、人類は自分自身が造り出した化合物で滅亡の道を歩みかねない状態である。工業化や自動車による大気汚染、地球の温暖化による砂漠化の進行、環境ホルモンはあらゆる生物を雌化させ、性によって生命の永続性を保ってきた生物を絶滅させようとしてい

るように見える。

一方、表面的には生活は便利になり、特に日本では経済的な発展もあって半世紀前には想像できなかった豊かな生活を享受している。平均寿命は飛躍的に伸び、男女とも世界一である。いまだかつて経験したことのない超高齢化社会が到来した。医学知識の普及、医療の進歩によって二十一世紀にはさらに高齢化が進むであろうし、科学も進歩するだろう。しかし、人類は二十一世紀には今より幸福になれるだろうか？

私はこう考えている。二十一世紀の地球の運命を担うのは若者である。彼らこそ人類の築いてきた英知を受け継ぎ、未来を切り開いてよりよい社会を作っていくことができる。人間は生まれた時は本能のみでなにも知らない。教育（家庭、学校、社会）によって、人間としての生き方を教わる。思考すること、科学すること、判断することを学習するのである。これらの学習なくして人間は進歩しない。文系、理系を問わず、大学では生命に対する深い倫理観を学習する必要があると思う。なによりもまず人間として、地球人としてどう生きるべき

かを考える人物を育てるといふ教育こそい  
ま大学では必要とされているのではないだ  
ろうか。生命倫理に対する理解が重要であ  
ると思う。生化学を専攻した私がどうして、  
このように考えるようになったのか、以下  
に述べてみたい。

### 生命科学の源流は生化学である

私は医師になることを志した。まさか生  
化学者として一生を送るようになろうと  
は、思ってもいなかった。振り返ってみる  
といくつかの偶然が重なったようである。  
インターンを終え、臨床科に入局（教室員  
になることを医学部ではこう呼んでいる）  
しようと思っていたとき、生化学の緒方規  
矩雄教授から勧誘された。インターンで臨  
床科を一通り経験した私は生化学の研究を  
してみたかった。生化学が今日のような生  
命科学へと発展するとは夢想だにななかつ  
たが、経験、観察、考察を主とした医学を  
実験科学へ導く可能性があると、思ってい  
た。当時は癌の研究がしてみたかった。現  
在では早期発見すれば、不治の病ではな  
くなったが、当時は「癌止不治の病」と考  
えられていたのである。その頃は一般的に癌  
が遺伝子病、つまり遺伝子が変わること  
によっておきる疾病であるという明確な認  
識はなかった。しかし、なにか、漠然とそ  
のように予感されていた。遺伝子を研究す  
るには生化学が一番近い。だから、生化学  
の研究をしてみたかった。

### 新潟大学医学部生化学教室にて

私にとって生涯の恩師になった緒方規矩  
雄先生は、東大医学部の大学院を終えられ

ると直ちに当時の島蘭順雄教授に助教授と  
して新潟大学に招聘され、若くして「細胞  
質にはアミノ酸を転移RNAと結合させる  
酵素が存在する」ということを発見された。  
これは蛋白合成の第一段階がアミノ酸の活  
性化であることを示した世界的な発見であ  
った。同じことを米国ボストンのマサチュ  
ーセツ総合病院（MGH、ハーバード大  
学医学部関連病院で米国で一番歴史のある  
病院）生化学研究所のM.B.Hogland博士  
らが発見していた。彼らの論文の発表が半  
年程早かったがHogland先生は良い方で、

緒方グループの発見が自分たちと全く無関  
係に達成されたことから同時の発見である  
と認めて下さった。お二人が生涯の友人と  
なられたことは言うまでもない。当時の新  
潟大学医学部生化学教室は新しい発見を確  
認すべく熱気に満ちた研究が続いていた。  
その後、緒方先生は文部省在外研究員とし  
て米国に渡られたが、オランダで開催され  
た「蛋白合成の機序」の国際シンポジウム  
に日本人としてただひとり招待され発表  
することとなった。留守部隊は野原広美先  
生（後の新潟大学歯学部部長）を中心に夜に  
日をついで実験し、データを航空便で米国  
に送り、緒方先生がそれを見て次の指示を  
出すと言ったことが半年続いた。その結果  
がProtein Biosynthesisという論文集にのり、  
私の名前が乗った初めての論文となった。  
その頃、スピコン社製の超遠心分析器が  
入り、菅野浩先生（新潟大学名誉教授、敬  
和学園大学名誉教授）が理学部から来られ  
た。先生は電気泳動法の大家で化学実験の  
基礎トレーニングができていない私たちは  
いろいろご指導いただいた。緒方先生が私

に与えた課題は「動物のメッセンジャーR  
NAの存在を証明せよ」というものだった。  
当時、ジェイコブ、モノーが細菌でオペロ  
ン説（一つの代謝過程に関する酵素の遺伝  
子群の発現は一つのオペロンで調節されて  
いるという説）を提出し、遺伝子発現の中  
間体としてメッセンジャーRNAの存在を  
報告していたからである。私の博士論文は  
「マグネシウムイオン除去によりリボソ  
ムから遊離する代謝回転の早いRNAにつ  
いて」という分かりにくい題の論文である。  
メッセンジャーRNAは細胞質に存在する  
リボソーム（たんぱく質の合成工場）と呼  
ばれる核蛋白顆粒とマグネシウムイオンを  
介して結合していると考えられていたの  
で、マグネシウムイオン除去により遊離さ  
せて分析すれば証明できるかもしれないと  
考えたのである。菅野先生のご協力もあり、  
ようやくデータをj得て論文とした。動物細  
胞におけるメッセンジャーRNAの存在を  
示唆する論文として評価された。このよう  
に、菅野先生には格別、ご恩を受けている。

ボストンから始まった研究者としての生活  
その後、米国ボストンのマサチューセツ  
総合病院、ハーバード大学医学部で研究  
する機会を得た。帰るのがいやになるほど、  
当時は米国と日本の研究環境に差があっ  
た。そして研究もうまくいっていたので生  
化学者としてもう少しやってみたいと思  
うようになっていた。帰国後、野原先生はじ  
め先輩たちが教室を離れられ、大学紛争も  
あって大学における研究を絶やしてはいけ  
ないと教室に残ったものの、世界の生化学  
は生命現象、遺伝学を分子レベルで解明す

る分子生物学へとシフトしつつあった。分子生物学的研究は比較的分析しやすい大腸菌やウイルスを材料に用いて飛躍的に進歩していた。動物の組織は複雑すぎて解析が難しい。分子レベルのデータをだすのは苦しかった。もうやるだけはやった、本当に臨床科に移ろうと覚悟をきめた。ところが、山形大学に医学部ができ、昭和五十二年に山形大学医学部生化学第二講座教授として赴任することとなった。山形大学では、遺伝子の構造、発現調節の研究に二十二年を過ごした。優秀な教室員が集まってくれて活発な研究生活を送ることができたのは、ありがたいことだった。現在、教授として活躍している人が三名、助教授が二名いる。外国からきた留学生も現在三名が米国、カナダで活躍している。臨床科との共同研究で臨床研究のお手伝いもした。研究費の苦労はあったが、充実した日々であった。

### これでいいのだろうか

研究者としていわゆる「象牙の塔」で遺伝子研究に一喜一憂する生活を続けていたが、世界的には生命科学の分野がコンピュータの分野と平行するように急速に進歩していた。ヒトゲノム計画もスタートし、人間の遺伝子的設計図を明らかにしようとする時代に入っていた。医学の分野では体外受精、脳死と臓器移植、など重要な問題が論議された。純粹に地球生命の仕組みを遺伝子研究という面から考えると、その見事さに圧倒される思いであった。素直に「神」の存在を信じたくなる。この地球という惑星に生命が誕生して三十六億年、そしてアフリカの地で五百万年前、森に住む

チンパンジーが環境の変化で地上の草原で二本足で歩き始め、人類が誕生したと考えられている。その頃アフリカでは地核変動がおき、高い山脈ができて地域的に気候が変動し原始森が変化した。雨が降り食糧も豊かな森林のある地域と乾燥し草原化して食糧の貧しい地域に分けられたのである。そしてこの偶然が人類を誕生させたと考えられている。貧しい草原で二本足で立つて歩かねばならないことが大きな脳をもつことを可能にし、知能が発達したと考えられている。これは本当に単なる偶然なのだろうか。科学者はそこに必然性が証明されない限り、単なる偶然の帰結であると考え、そこにおおきな「意志」はなかったのだろうか。地球に生命が誕生したことといひ、人類が誕生したことといひ、単なる偶然の産物だと考えていいのか、と自問するようになっていた。

東北大学の抗酸菌研究所（現在の加齢医学研究所）の及川淳教授（故人）と六年にわたり、五月の連休を利用して最上川を上流から川沿いに名所旧跡を辿って河口まで旅をしたことがある。私が山形大学医学部に着任して出羽の国山形を知りたいと企画してお誘いしたのである。及川先生は哲学的に生命科学を考える方であった。最終講義に「死について」と題して話された位である。旅の夜には遅くまで「生命の意義」「科学の在り方」、「人間の生き方」、などまるで高校生のように熱心に議論した。ある年「毎日四時に起きて平家物語を読み直してみたよ」といわれたこともある。文芸的な素養と高い理性を持ち、私の尺八を好んでくださった。その退官記念随筆集『生物

科学について』を私は繰り返し読み返している。そして、医学をはじめ、生命科学の研究はこれでいいのだろうか、と考えるようになった。

### 生命倫理に期待する

及川先生は国立がんセンター研究所で杉村隆先生（同センター名誉総長）の許で活躍され、東北大学教授となられた方である。ほぼ同じ時期に及川先生は東北大学に、私は山形大学に着任した。文部省の研究班で一緒に働くようになって親しくなったが、最上川旅行などを通じて及川先生の生命科学者としての冷徹な目と感性豊かな人柄にぐんぐんと惹かれていった。退官記念随筆集では、生命科学、医療が予想をこえた進歩をしつつあり、それに歴史的に成り立っていた生命観の変化が追いつけなくなっているアンバランスが生じていることの重大性を指摘しておられる。「世の多くの自由主義政権は経済問題に縛られて、好むと好まざるとに拘わらず環境を破壊する自由を守る側に付きがちである——（中略）——多くの市民が、科学技術の専門家としてではなしに素人として、専門家の提言を聞くだけでなく自ら問を發し、冷静な判断をしていく態度を身につけることが大切な所以である」という言葉は重い。そのような市民を育てることの重要性が大学に問われているのではなかろうか。

# 教員として

九五年度卒業生 田村 晶子

(県立新津工業高等学校勤務)

私が敬和学園大学を卒業したのは一九九五年三月ですから、もう五年も前のこととなります。第一期生として四年間学んだわけですが、学年が進むに連れてどんどん学内が賑やかに活気づいていった事を覚えています。同学では英語英米文学科に在籍し、併せて教職課程も履修しました。元々教員になりたかった私としては、思いがけず教職課程がスタートすると聞き、まさに心踊る気分であったのを思い出します。学生時代には、アルバイトとして塾の講師や家庭教師をやり、教える立場として多くの生徒(主に中学生)たちと向き合い一緒に学習していく中で、彼らが物事をどのように感じ、捉え、そして考えているのかを感じることができました。そしてそのことが、今も私に沢山のヒントや示唆を与えてくれているといっても過言ではありません。

現在、私は新潟県立新津工業高等学校に英語教諭として勤務しています。こちら的高校には昨年春、新採用教員として赴任しました。一昨年は県北の二つの高校(普通科及び工業科)を掛け持ちする形で非常勤講師として勤務しましたが、それぞれ違ったタイプの生徒たちと校風、その時初めて「教員」として教壇に立つことになった私には良くも悪くもカルチャーショックの連続だったように思います。しかし、その甲斐

あって、現在の勤務校にはさほどの違和感なく溶け込むことができました。

本校は工業高校というだけあって全校生徒のほとんどが男子生徒です。周囲の方からは「工業高校だなんて大変でしょ？」などとよく聞かれますが、生徒たちは皆元氣一杯で気持ちが良く、逆にこちらが励まされることも多々あるのです。学習面では、決して英語が得意な生徒ばかりでなく、更には学習意欲の面でフォロワーの必要な生徒も多いため、いかにして彼らの気持ちを「英語」という科目に向けさせるかが私たち教員の課題であり、あの手この手と試行錯誤しながら生徒たちと格闘する毎日です。しかし、それこそが教師として働く上で、もっとも大切かつ楽しみなことなのでは？と、感じています。

校務分掌では進路指導係、そして部活動では硬式テニス部顧問と授業以外でも生徒たちと接する機会は多く、それぞれの場面において彼らと共に考え、共に目標を目指し、共に努力し、そしてサポートすることが教員としての一歩を踏み出したばかりの私の大きなテーマなのだと思っています。

様々な環境に育ち、様々な人格を持った生徒たち一人ひとりと関わる中で、彼らに何かを与え、そして私自身も常に学び成長し続けられるような、そんな教員をめざしてこれからも努力していきたいと思っています。



## ゼミ紹介

英語英米文学科教授

松崎 洋子

毎年秋になると翌年のゼミのテーマを考えます。学生が面白いと感じ、意欲的な活動ができ、英語も上達し、願わくば将来、あれは意義のある勉強だったと思ってもらえるテーマを見つけたいとあれこれ欲張ってしまい、なかなか決まらないのが実情です。

今年度はやはりアメリカ文学を代表する作家、アーネスト・ヘミングウェイを取り上げることにしました。うれしいことに、このテーマだからこそと十人の学生が私のゼミにきてくれました。

というわけで、ヘミングウェイの短編を読んでもありますが、それと並行して学生は様々な課題に取りかかっています。まず、彼の作家活動がピークであった一九二〇年代、三十年代のアメリカ社会や世界の状況がどのようなものであったかなどを調べ、当時の映像を記録したビデオも参考にして、発表や意見交換をします。調べたことをもとに自分でも考えてみることは、視野を広げ、作品をより深く理解する上で大切です。また、私のゼミではウォームアップとゼミ生のコミュニケーションをかねて、前の週の出来事などについて、皆で十分程度英語で話しあいます。話すことを事前に考えておく、互いに質問をする、など私の注文は多いのですが、いい雰囲気が進んでおり、これからは楽しみます。

「自分はどうか思うか」——それが当たり前前に言えるようなゼミでありたいですね。

# 敬和学園大学と私

九九年度卒業生 品田 千早

(県立津南高等学校勤務)

私にとって敬和学園大学は、たいへんお世話になった大学であると同時に、思い出深い大学です。私は、敬和学園大学の教職課程を希望し、編入生として受け入れていただき、二年間通いました。一九九九年三月に卒業し、四月から新潟県立津南高等学校に赴任して、現在二年目となっております。

今振り返って、敬和学園大学のよかったところは、まず、教職課程が充実していることです。少人数制ということもあり、担当の先生方の目が一人ひとりの学生に行き届いていると思います。授業も実際に自分が英語の授業を行う場合に対応した、実践的な活動が多く盛り込まれていたと思います。例えば、私たちは英語の授業を自分で立案し、指導案を書きました。それに対して、教職の先生方は一つひとつ訂正やアドバイスをしてくださいました。また、グループで行う課題が多かったので、教職課程を履修している学生の間で、協力しあう態度が形成されました。このグループ活動は、私が今高校の授業で効果的に取り入れようと試みていることです。

次に、敬和学園大学の整った設備がよい点として挙げられます。図書館には、新聞から専門書までたくさんおいてあります。特に、私が助かったのは、教員採用試験の

ための雑誌がおいてあり、試験前に大いに利用できた点です。図書館だけではなく、コンピュータの部屋も開放していて、学生が課題などで自由に活用できるようになっていました。

現在の赴任校では、英語を週に十六時間任され、また、三年生の副任をしています。校務分掌については、進路指導の就職係と学校安全委員になっています。それから、部活動は卓球部の顧問をしています。

英語の授業に関して特徴的なことは、インターネットを用いた英語の授業をしたり、ハロウィーンなどの異文化の行事を体験させたりしていることが挙げられます。

卓球部は、魚沼地区内や中高一貫の練習試合に参加します。私は顧問として、時には宿泊のある大会も引率しなくてはなりません。放課後の部活動あるいは、夏休みは午前中、毎回生徒と一緒に練習しています。就職担当として企業見学に行ったり、学校安全委員として、学期末に校内の掃除のモップを回収して洗ったりする仕事もします。このように仕事は、必ずしも英語に関連したことばかりではありませんが、忙しいけれど楽しくやっています。このように働けるのも、敬和学園大学で教職を履修できたおかげであると感謝しています。

# ボランティア実習を終えて

本学の特徴の一つともいえる「ボランティアする大学」への取り組みは、今年で十年目になります。二〇〇〇年度は、その意味でも新しい飛躍をはかるべく、「ボランティア論」が単位ながら必修科目として、開設されました。また、同科目において「三級ヘルパー研修事業」を同時展開させていく内容になっています。そのため、希望する一年次生は三級ヘルパー資格取得も可能となりました。ただ、そのため「ボランティア実習」の他に「三級ヘルパー実習（①同行訪問実習、②デイサービス見学等実習）」を、前期中に行わなければならなくなりました。実習目的がちがう両者ですが、実習福祉施設をはじめ、実習期間や実習内容など、重複する点が多々あり、学生諸君には、まぎらわしく、混乱した学生もいたようです。また、無断欠席や遅刻等の学生の意識・自覚の問題に対して、「個別の事前指導」を丁寧に行う必要があるなど、次年度以降への課題が多く残されています。

しかし、学生諸君は、実に豊かな経験をすることができたのではないのでしょうか。それらは、すぐに実を結ぶということではないにしろ、彼らに神を愛し、人に仕えゆく「ボランティアの種」が蒔かれたことは確かです。

六月二十九日～三十日と二日間にわたる「ボランティア実習」を終えた学生諸君の

顔にはいきいきとした輝きが見えました。実習はあくまでもきっかけにすぎません。その出会いを、また、福祉・介護・ボランティアに関心を抱いたその心を大切にしてほしいと切に祈ります。

## ボランティア実習報告

実習者数	1年	149名
	4年	1名
	計	150名
実習施設	老人福祉施設	27施設
	障害福祉施設	17施設
	児童福祉施設	16施設
	計	60施設

## 3級ホームヘルパー実習報告

実習者数		89名
実習施設	社会福祉協議会関係施設	18施設
	老人介護福祉施設	8施設
	計	26施設

## ボランティア日誌

英語英米文学科一年 三星 寛徳

私はこの二日間で私は多くの事を学びました。私が実習先に選んだところは、知的障害児通園施設でした。健常者が通う幼稚園とは多少異なる面もありました。

ボランティア初日は、期待と園児となじむことができるのだろうかという不安とを抱きながら幼稚園の門をくぐりました。

話すことができない園児、男性を嫌う園児、背の高い人を好む園児など様々でした。私はある園児にものごく好かれ、二日間その子専属の保父さんって感じでした。午前十時から午後二時まで遊戯室で遊んだり、本を読んだり、近くの公園まで散歩にいったりして過ごしました。また、昼食は施設の方から用意してもらった給食を園児と一緒に食べることになりました。学校給食を思い出し、とてもなつかしい感じがしました。大学では味わえない「新しい時間」を経験できた有意義な体験でした。私がこの二日間で感じたのは、障害児といわれる子どもも健常者と何も変わらないということでした。彼らの笑顔をぜひ見てください。ただ少し、健常者に比べ敏感なだけなのです。

私はこのような経験を多くの人々にもしてもらいたいと思います。そうすることで偏見がなくなってくれたらうれしく思います。また個人的にあの幼稚園に行きたいと思っています。



# 学長殿

ケアハウス希望の園に入居している者でございます。お忙しい学長様に失礼とは存じますが、書かせていただきます。去る六月二十九日、三十日と学生さんが奉仕にきてくださいましたこと一言御礼申し上げたく存じます。本当に有難うございました。二日も本当によく働いてくださいました。

二十九日午後、畑の仕事をさせていただきました時の事でございます。入居者には鋤を持つ仕事は無理なので、春ボランティアの方が、耕運機で耕して下さいました畑の一角に土が盛ってあります。小学校の下の畑なので大雨が降ると南瓜や豆類が植えてあるところに土が流れて埋まってしまいました。どうしても大雨の前に溝を掘りたいと思っていた所へ、二十九日の午後、畑の奉仕をしてくださいました。さつそく男子学生さんの方に長さ二十五mの土手下に深さ三十cmの溝を作ってくださいました。さらに、となりの土地が荒地で芽が一面生えており、こちらの畑まで根がはびこるので困っておりました。そこで、再度そこに深さ六十cmの溝を作って最後に大穴を掘って頂きました。その仕事ぶりの見事さ、嫌そうな顔も態度もなく、汗を流してやってくさいました。

女子学生の方はとなりの土地より入りこんで来た芽の根を掘り出してくださり、大助かりでした。感謝でございます。

老人でもニューズで若者の色々な事件に心の痛むこの頃です。こんな立派な若人がいられると思うと心よりうれしゅうございました。これも一重に学長様の教訓の賜物と存じ上げます。若し折がございましたらよろこんでいたとお伝えくださいませ。

御迷惑を知らず申し訳ございません  
七月十日  
学長殿  
山崎 イツ

## 訳書紹介

### 英文「良寛 短歌・俳句選」出版 音韻律と音数律調和

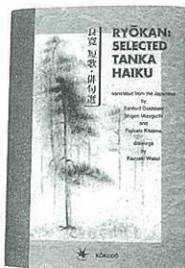
#### 古語の理解を深める

谷川敏朗

五月二十、二十一日の両日、新潟市で「良寛百七十年祭」が催された。その行事の一端として、第一回「良寛国際シンポジウム」が開かれた。それに呼応して、英文による『良寛 短歌・俳句選』が出版された。選出された作品は、短歌百首と俳句二十句である。いずれも珠玉の作品で、良寛という人物を知るうえで、きわめて重要なものばかりである。

「良寛」を題名とする外国の著書が、近年特に多くなった。英語、中国語、タイ語、フランス語、ドイツ語など欧米やアジア諸国に見られる。その中でも、本書は出色である。

短歌も俳句も、大きく見れば詩である。詩にはリズムがなければならぬ。このリズムは、欧米語や中国語は音韻律であるが、日本は音数律である。これをどのように調和させるかが、もつとも苦心するところであろう。それを訳者は、見事に克服されたのである。短歌の五七五七七と俳句の五七五の場合、短歌の行詩に、俳句は三行詩にと、あざやかに転換



された。

もともと良寛には、音韻によるリズムもある。しかし、良寛の音韻律と欧米語の音韻律とは、おのずと違いがある。この違いを生かすには、じつに多大の労苦があったものと想像される。それだけに見事な訳詩である。

次に、一ページに一作品が載せられていて見やすい。この中に、良寛の作品の日本語文、そのローマ字文、さらに英語訳があり、対照するに便利で、英語に慣れない人でも容易に英訳が理解されよう。それに日本の古語は、現代となつては難しい。しかし、英語に訳されたことによつて、逆に古語の意味が受け取りやすくなり、作品の内容がはるかに分かりやすくなつていく。これが本書の価値を高めている。

また適切な注があり、理解に役立つている。それに柔らかな浦井一朗氏の絵も、良寛にふさわしい。

さらに、巻末には短歌と俳句および人物と風土の解説や作品の索引、参考文献があつて便利である。特に英文の文献集は、新鮮である。

こうした点で、良寛の心を全世界に広めるために、本書はまことに意義深い。

(良寛研究家)

### 『良寛 短歌・俳句選』

はS・ゴールドステイン監訳、北嶋藤郷訳、水口志計夫訳で考古堂(新潟市)から出版された。二〇九頁。

「新潟日報」(二〇〇〇年七月四日)の文化欄より転載

# 夏期短期留学レポート

## 短期留学を終えて

国際文化学科二年 三浦 利治

ロサンゼルス空港から出て、ふと空を仰ぐと、空の青の鮮明さとギラつく太陽に思わず笑みがこぼれ、これから始まる五週間のアメリカ滞在に期待で胸が高まりました。

空港から一路サンバナーデューノ大学へ向かう途中、広大で、さまざまな表情をもったアメリカの大地に息を飲みました。フリーウェイから眺められる範囲ですが、その乾燥した壮大な大地は、今まで日本で見慣れている景色とは、まったく違う色を放ち、私の目を圧倒しました。

広い大学内は、緑がたくさんあったり、芝生の上をリスが駆け回っていたりと、のどかな雰囲気、私たちは、リラックスして勉強することができました。クラスには、いろいろな国々から真剣に英語を学ぼうとしている人たちが集まっていたので、授業は結構大変でした。なによりすべて英語で、コミュニケーションをとることの難しさを肌で感じ、英語力不足に悩んだこともありました。けれど、気さくなクラスメートと先生のおかげで、それほど苦にはなりません。それに、放課後は、大学のプールでピクニック・アップの時間ギリギリまでよく泳ぎました。ジャンプ台もあり、おもしろいジャンプして飛び込むのはとても楽しく、首が痛くなるまでやってしまいました。週末には、フィールドトリップがあり、

デイズニールランド、シーワールドやユニバーサルスタジオに行きました。中でもユニバーサルスタジオのほか、映画制作の裏側を見るのができたりと、映画好きでなくとも楽しめること請け合いです。

ホストファミリーは、五人家族で、犬三匹と猫一匹と一緒に暮らしている大変にぎやかな家庭で、飽きることがありませんでした。カリフォルニアはメキシコに近いので、メキシコ料理

がとてぽピュラで、夕食にもブリトリーやタコスなどが頻繁に出されました。私は、とても気に入ったので日本にそれらの食材を持ち帰り、みようみまねで料理しているほどです。また、今でも

忘れられないのは、家族と近くの公園まで犬の散歩に行った時に、父親のフレッドが、「日本へ帰っても手紙をくれよ。ペンフレッドとなって関係を続けていこう」と言ってくれたことです。それは、私の方からお願いしたいくらいでした。

最後に、ネバダ州にホストファミリーと旅行したときの雄大な山々は忘れることはないでしょう。私を支えてくれた人たちへ、本当にありがとう。



## 学内スポーツ 大会を終えて



薄曇りの絶好のスポーツ日和のもと、六月十七日(土)に第二回学内スポーツ大会が開催されました。今年は昨年を大きく上回る二百人以上の参加者があったので、開会式に先立ち八時から競技を開始しました。大学生は、朝が弱いので心配でしたが、七時過ぎには練習を始めるチームもあり、早朝から大会ムードが高まりました。

大会は高橋真知子実行委員長のもと、スポーツ系クラブの協力によって進められ、各種目に力一杯の熱戦が続きました。引き分けじゃんけん勝負で、最後の五人目までもつれこむという大接戦もあって大いに盛り上がり、若いエネルギーに満ちあふれた一日でした。閉会式では北垣学長から優勝カップ、表彰状が授与され、和やかな雰囲気の中で大会が終了しました。最後になりましたが、運営費の援助をいただきました。本学後援会に感謝申し上げます。

なお、各種目の一位は次のとおりです。

サッカー……………FCABE

ソフトボール……………高井組

男子バドミントン…仲川・中川

女子バドミントン…高橋・須永

男子卓球……………若槻

女子バレーボール…キャプテンが白ブタ

## 夏期短期留学に参加して

英語英米文学科二年 山田 貴子

私は、この夏休み、シアトルに五週間短期留学しました。到着したのは、日ざしが強くとても暑い日だったので、長袖が必要だといわれていた私たちにとっては驚きでした。

現地で通っていたワシントン外国語アカデミーでは、初日にブレイスメントテストが行なわれ、各クラス十人程度に分けられました。クラスメートは日本人はもちろん、同アジアの国々や、ヨーロッパ、南米と世界中から集まった人たちでした。そして何よりうれしかったのは、担当の先生が去年まで敬和にいらしたクロウフォード先生だったことです。授業は、文法やリーディング、ライティングはもちろん、スピーキングやリスニングもたくさんやりました。クラスのみならずとても英語がうまく、最初の頃は会話についていくのが大変でしたが、一生懸命に話をして、みんなが自分の英語を理解してくれた時はとてもうれしく思いました。休み時間には自分達の国についてクラスメートといろんな話をしました。そこで驚いたのは、どこの国の人もみんな、愛国心を持っていることです。自分はその国の人間であることに誇りを持っているだけでなく、自国の歴史、政治、経済をよく知り、現在の世界情勢にも目を向けていました。南米から来ていたクラスメートの一人に「日本はいずれ世界の三流国になる」といわれた時はショックを受けました。日本が三流国になることにはなく、

自分と同じ年代の人がものすごくレベルの高い話をしているように思えたからです。日本で友達と政治や経済などについて話すことなど考えられません。日本と世界の国々との視点の違いを感じ、いろいろなことを考えるいい機会になりました。

ほかにも、学校の友達とは、週末のイベントに参加したりして楽しい時間を過ごしました。また、敬和のみんなでカナダのビクトリアに二泊三日の旅行に行きました。ホテルやフェリーの予約など、すべて自分たちで計画を立てたので、その分楽しかったです、自信にもなりました。

今回の短期留学で、日本ではできない貴重な体験ができ、新しい目標を見つけることができました。

短期留学に行くかどうか迷っている人はたくさんいると思います。しかし、望めるものは英語の上達だけではありません。是非参加されることをおすすめします。



## 豊栄市公開講座終了

豊栄市での公開講座を七月七日から八月十一日までの金曜日に六回連続で開催しました。メインテーマは豊栄市の担当者や相談のうえ、「育もう子どもたちを」とし、幼児から大学生までの子どもたちの様々な問題を、六人の講師からそれぞれの専門と経験に基づき講演していただきました。



本講座は、七月末日で本学の事務局長を退職された藤倉庄平氏が、昨年からは豊栄市と検討を重ねた結果、初めてのテーマは、現在の社会問題として注目を集めているところでもあり、また、豊栄市が近年特に取り組んでいる分野でもあったことで、毎回五十人を超える参加者がありました。

この講座の運営には、教育長をはじめ、豊栄市の職員の方々から多大なご協力をいただきました。紙面をお借りし、心から御礼申しあげるとともに、この企画が毎年恒例となることを願っています。

# 二〇〇一年度入試のご案内

## 推薦入試が 始まります

二〇〇一年度入試は多様な尺度による入試制度を用意して実施します。概略は次のとおりです。

### A〇入学試験

面談を中心に入学希望者の適性を総合的に評価する新しい入試制度です。「面談申込カード」と「志望理由書」に基づいて面談Ⅰおよび面談Ⅱを行い、出願書類と併せて合格を決定します。学力試験は行いません。

### 推薦入学試験(指定校推薦)(一般推薦)

面接と調査書および特別活動等で合否を総合的に判定します。指定校推薦は専願ですが、一般推薦は併願も可能です。

### 一般入学試験(A日程・2科目型)

リスニング試験を含む英語と国語の2科目と調査書で合否を総合的に判定します。

### 一般入学試験(B日程・1科目型)

試験場で英語と国語の問題内容を確認してから受験科目を選択できる1科目入試です。英語にリスニング試験はありません。

### 一般入学試験(C日程課題面接型)

提示された課題についての意見をまとめた後に面接試験を受ける入試です。

### 一般入学試験(センター入試)

センター試験の英語が必須、選択科目は国語、地歴、公民から1科目、他に調査書で合否を判定します。この入試による成績上位の入学者には、奨学金を支給します。

なお、A日程、B日程、センター入試は重複受験も可能です。

### 編入学試験(第一次募集・第二次募集)

短大卒業見込みの方などを対象に小論文と面接により合否を判定します。十月と二月の二回実施します。

この他にも、帰国子女、社会人、外国人留学生のための特別入学試験も実施します。詳細については左記までお問い合わせください。

### 【問い合わせ先】教務課入試係

フリーダイヤル 〇二二〇一二六一三六三七  
(入試委員会・入試室)

## 2001年度入学試験概要

入試日程							
入試区分	学 科	募集人員	面談申込期間	試験日	合格発表	試験会場	選考方法
A〇	英語 英米文化	5名	7月1日(土)	/	出願後1週間前後	本 学	面談Ⅰ、面談Ⅱおよび出願書類(出願書類については一般入試に準ずる)
	国際文化	5名	～3月31日(土)				
入試日程							
入試区分	学 科	募集人員	出願期間	試験日	合格発表	試験会場	試験科目・配点
推薦	指定校推薦(専願制)	英語 英米文化 25名 国際文化 25名	11月1日(水) ～11月17日(金)	11月25日(土)	12月 1日(金)	本 学	面接、調査書、特別活動等
	一般推薦(公募制)	英語 英米文化 25名 国際文化 25名	11月1日(水) ～11月17日(金)	11月25日(土)	12月 1日(金)	本 学	小論文、面接、調査書、特別活動等
一般	A日程:2科目型	英語 英米文化 15名 国際文化 15名	1月9日(火) ～1月25日(木)	2月 2日(金)	2月 9日(金)	本学、新潟、長岡、会津若松	英語(リスニング含む)100点、 国語100点、調査書100点
	B日程:1科目型	英語 英米文化 15名 国際文化 15名	1月9日(火) ～1月25日(木)	2月 3日(土)	2月 9日(金)	新 潟	英語(リスニング含まず)、国語より1科目200点、 調査書100点
	C日程:課題面接型	英語 英米文化 5名 国際文化 5名	2月19日(月)	3月12日(月)	3月16日(金)	本 学	面接100点、調査書100点
		英語 英米文化 10名 国際文化 10名	1月9日(火) ～1月29日(月)	1月20日(土)、 1月21日(日)	2月 9日(金)	/	英語200点、国語、地歴、公民の11科目より 1科目200点、調査書100点
	編入学(第1次募集)	英語 英米文化 若干名 国際文化 若干名	10月2日(火) ～10月13日(金)	10月21日(土)	10月26日(水)	本 学	小論文、面接
編入学(第2次募集)	英語 英米文化 若干名 国際文化 若干名	2月5日(火) ～2月16日(金)	2月23日(金)	3月 1日(木)	本 学	小論文、面接	

# オープン キャンパス報告

七月二十二日(土)と九月九日(土)の両日、オープンキャンパスが実施されました。七月は七十五名、九月は六十五名とともに多数の参加者がありました。



インターネット英語、リスニング、コミュニケーション、教職体験発表などの模擬授業とデイベート、ドイツ語、英文学、文章作成、ディスカッションなどの基礎ゼミ、教員による個別相談、在学生によるキャンパスライフ相談や館内クルーズ、サークル紹介が行われました。参加者のうち七名がAO入試を受験しています。参加者はオープンキャンパスで大学の雰囲気や授業内容に触れ、志望を決めているようです。

オープンキャンパスが無事に終了できたのは参加された教職員、学生の皆さんのおかげです。この場をお借りして篤く御礼申し上げます。

(入試委員会・入試室)

# 敬和祭のご案内

第十回敬和祭が行なわれます。

今年、「世界につながる敬和の空」をテーマに、次の日程で行なわれます。今年、創立十年を迎えることもあり、例年以上に充実した企画があります。多くの皆様のご来場をお待ちしております。



日時 十一月十一日(土) 九時～十七時  
十一月十二日(日) 九時～十九時  
会場 敬和学園大学構内  
内容

- ・学生によるライブ演奏
  - ・サッカーフェスティバル二〇〇〇(小学生対象)
  - ・教職課程発表会
  - ・本学学生によるゼミ発表
- そのほか、いろいろな企画や屋台があります。

【お問合せ先】  
敬和祭実行委員会

電話 〇二五四―二七一三二五〇

# 創立十周年記念 特別講演会のご案内

開学十周年を記念して、特別講演会を行いますので、是非ご参加ください。この特別講演会に参加ご希望の方に、整理券を発行します。参加を希望される方は、本学総務係宛、官製はがき、ファックス、Eメールでお申し込みください。

お申し込み方法は、次のとおりです。

- I 部「世界の日本」  
講師 (財)日本国際問題研究所  
理事長 小和田 恆氏
- II 部「日付変更線を越えるように、文学と歴史の境界線を越える私」  
講師 コロンビア大学  
名誉教授 ドナルド・キーン氏
- 日時 二〇〇〇年十月二十八日(土)  
十四時～十七時  
場所 聖籠町民会館  
(聖籠町大字諏訪山二二八〇)  
電話 〇二五四―二七一三二二一

参加費 無料  
申込み 十月一日(月)から申し込みを受け付けます。

【お問い合わせ・申込み先】  
総務課

〒九五七―八五八五 新発田市富塚二二七〇  
電話 〇二五四―二六一三三九四  
FAX 〇二五四―二六一三六四六  
Eメール somu@keiwa-c.ac.jp

# ご挨拶と自己紹介

事務局長 諸橋 寛一郎

はじめまして。私はこの八月から本学の事務局長の職を拝命いたしました諸橋です。

本県柏崎市に生まれ、昭和四一年に地元を離れて三十余年間、転勤のついで回る損害保険業界に在籍していた民間企業の出身者であります。ソロバン時代のデスクワークが嫌で営業の仕事を選択したことから、地元長岡をスタートに三二年間の営業店勤務を経て、最後は本社管理部門に籍を置き、社規社則と業界規程の遵守状況の検査と業務指導に携わり一回目の定年退職、引き続き業界団体の日本損害保険協会新潟支部で業界絡みの仕事に關与して参りました。二度の職場とも関係省庁は大蔵省（現金融庁）で、特に管轄の財務局とは厳しい交渉も多々ありましたが、今にして思えば楽しく仕事をしながら二回目の定年を迎え今日に至りました。

学校事業の運営や関連業務については、文部省を筆頭に私学事業団などその全てが未知の分野で、頭の中は不安という花が満開の状況であると申し上げても過言ではありませぬ。就任前より理事長・学長先生のご配慮で、理事会をはじめ各種会議に陪席を許され勉強の機会をいただいで参りました。この間習得できたことを一言で表すなら「私学の経営は極めて厳しい時代に突入している」ことに尽きる感じがいたします。

周囲の皆様にご指導を仰ぎながら、また

歴代の事務局長が築き上げられた功績を継承しつつも改革にも取り組んで参りたいと考えています。

極暑の夏も終り、後期の授業が始まり、学園の様子は一変し活気をおびてまいりました。学生諸君とともに私も新たな挑戦に向けスタートいたします。

学生には、「素晴らしい教育活動を誇る本学で学べる幸せ」を念頭におき、「顧客（学生）を大切にす大学」「地域から大切にされる（求められる）大学」の構築をめざし皆様と共に額に汗する覚悟であります。

各位の更なるご指導とご理解、ご協力をお願い申しあげる次第であります。

## 藤倉庄平事務局長退職

藤倉氏には、一九九五年八月から本年七月末日までの五年間、本学の事務局長としてご尽力いただきました。

私と藤倉氏とのご縁は、大学の設立事務を行っていた際、当時、新発田市の助役であった氏に大学の創設に多大なお働きをいただいた頃に遡ります。

学校法人敬和学園が四年制大学の設立を決議した時には、すでに新発田市と聖籠町が本学誘致を決めていました。大学設立創設費のほとんどは、両市町と新潟県からの補助金でまかなうことになっていましたが、創設費は、準備が進むと当初見込んでいた額よりどんどん増えました。その度に、誘致の中心的役割を担っていた当時の新発田市長近寅彦氏をはじめ、藤倉助役は

か関係各位のご尽力で、補助金を増額していただきました。

一九八八年三月に文部省に新設計画書を出し、受理されたことを受けて、農地転用（大学予定地を農地から学校用地に転用するための申請）の許可を農林水産省から受けました。しかしながら同年秋に本学が設立申請を取り下げ、一時大学設立は白紙に戻りました。その処理のため、金沢の北陸農政局に、新潟県、聖籠町の方とともにお詫びに赴いて下さったのも藤倉氏でした。

さらに、申請手続きの時に、就任予定教員の書類不備が指摘され、急遽、東京をはじめ遠くは九州まで、新発田市役所および聖籠町役場の課長以上の方々を動員し、ほぼ二日間で書類をそろえるということもありました。その采配を振るって下さったのも藤倉氏でした。

本学事務局長に就任された後は、本学と自治体間のパイプ役を果たされたのをはじめ、後援会やオレンジ会の運営には多大なご功績を残されました。

事務局内では、事務職員服務内規の制定や、活発で定期的な人事異動は、藤倉氏でなければ、なし得なかつたことです。

退職されたことは誠に残念ですが、居所は新発田市内ですし、オレンジ协会会员として残っていただきましたので、これからもご指導ご鞭撻をいただきたいと思っております。

（総務課長 長澤）

# 図書館の 新設コーナー

昨年から図書館に、北垣学長の発案で、  
本学教員が出版した図書を展示する書架を  
設置しました(写真左)。著書、共著、翻訳  
といういろいろありますのでご覧ください。



また、今年六月には、図書館の従来ビデ  
オブースを設置していた場所を仕切り、コ  
ンピュータを二十台に増設して、コンピユ  
ーター・コーナーを作りました(写真上)。



学生は、栄  
光館4階にあ  
るコンピユ  
ータ教室も、授  
業で使用しな  
い時間帯には  
自由に使うこ  
とができます。  
どちらも多  
くの利用者で  
連日にぎわっ  
ています。

# 教員の学会等出張

(二〇〇〇年七月一日～九月三十日分)

## 北垣宗治教授

同志社大学人文科学研究第一部門研究  
(新潟研究)八月研究会発表  
八月十一日(金)～十三日(日)  
京都市・関西セミナーハウス

## 柴沼晶子教授

日本比較教育学会第三十六回大会出席・提案  
七月八日(土)～九日(日)  
東京・早稲田大学

## 淺野幸穂教授

第六回国際フィリピン研究会議出席  
七月九日(日)～十五日(土)  
フィリピン共和国

## 永野茂洋教授

聖書学+αセミナー出席・発題  
九月四日(月)～五日(火)  
東京・奥多摩福音の家

## 山田耕太教授

Lund Conference Rhetorical  
Argumentation in Biblical Texts 出席・発表  
七月二十二日(土)～三十日(日)  
スウェーデン  
日本新約学会第三十九回大会出席・発表  
九月六日(水)～八日(金)  
東京・立教大学

## 益谷眞助教授

日本健康心理学会第十三大会出席・発表  
八月二十九日(火)～三十日(水)  
東京・早稲田大学

# 学事予告

## ◆十月◆

十三日 新発田市公開講座⑦  
二十一日 帰国子女・社会人・編入学  
(第一次)入試

## ◆十一月◆

二十八日 創立十周年記念特別講演会  
二日 企業との就職懇談会  
十日 ふれあいバラエティー  
十一日 敬和祭(～十二日)  
十七日 学生リトリート(～十八日)  
二十五日 推薦入試

## ◆十二月◆

五日 十周年記念特別講演会  
十五日 クリスマス行事  
十六日 大学・高校合同研修会  
二十三日 冬期休暇(～一月八日)

# 寄付者ご芳名

- 一 般
- 斎藤 初 細井コウ
  - 伊藤清子 藤倉庄平
  - 板谷八重子
  - 一九九一組 桜井博子 遠藤和人
  - 金山撰子
  - 一九九三組 栗栖仲次② 落合健一
  - 霍間慶子
  - 一九九四組 渡辺貴博 姜 先姫
  - 一九九五組 小林亜紀 山本 勝
  - 一九九六組 須貝洋人 長谷川政和

# キャンパス日誌

## 6月

- 29日 ボランティア実習(～30日)
- 30日 敬和フォーラム⑩  
講師 田中利幸教授  
「慰安婦制度設立と拡大—その史的批判」  
学園常任理事懇談会

## 7月

- 5日 教授会
- 7日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑩  
講演 北垣宗治 学長「本当のことを言う人」  
豊栄市公開講座①  
講師 北垣宗治 学長  
「私の教育論—親として、教師として、学長として」
- 14日 前期講議終了  
チャペル・アッセンブリー・アワー①  
説教 山田耕太 教授  
「蛇のように賢く 鳩のように素直に」  
講演 五十嵐海理 講師  
「総称性・法律・ことわざ」  
杉村使乃 講師  
「『テキスト』という考え方」  
豊栄市公開講座②  
講師 益谷 眞 助教授「罪の感情・キレル感情」
- 17日 前期補講期間(～21日)
- 21日 学園理事会  
豊栄市公開講座③  
講師 櫻井慶一 文教大学教授  
「豊栄市の子どもと子育て支援—調査にみる豊栄市の子どもたちは今」

- 22日 オープンキャンパス①
- 24日 前期末試験(～8月2日)
- 28日 豊栄市公開講座④  
講師 今成京子 氏(本学カウンセラー)  
「大人が子どもと向きあうことの大切さ」
- 29日 夏期短期留学・カリフォルニア州立大学サンパナデーノ校出発(5名)(～9月10日)  
夏期短期留学・ワシントン外国語アカデミー出発(9名)(～9月3日)

## 8月

- 4日 豊栄市公開講座⑤  
講師 石川喜一 教授  
「子どもの成長と栄養について考える」
- 5日 夏期短期留学・アングロ・コンチネンタル出発(1名)(～9月11日)  
夏期休暇(～9月24日)

- 7日 前期集中講義期間(～9日)
- 11日 前期補講期間(～21日)
- 21日 豊栄市公開講座⑥  
講師 坂東克彦 氏(本学園監事)  
「多発する少年犯罪とその問題点」(写真)



- 25日 新発田市公開講座①  
講師 北垣宗治 学長  
「親と子のコミュニケーション」

## 9月

- 1日 新発田市公開講座②  
講師 杉村使乃 専任講師  
「夫婦・家庭のコミュニケーション」(写真)
- 8日 新発田市公開講座③  
講師 五十嵐海理 専任講師  
「言語から考えるコミュニケーション」
- 20日 教授会
- 22日 前期卒業式  
学園理事会  
新発田市公開講座④  
講師 新発田市商工会議所副会頭 渡辺幸二郎 氏  
「歴史が語る町づくりとコミュニケーション」
- 25日 後期講議開始
- 26日 特別講演会  
講師 オックスフォード大学ニッサン日本研究所 所長 アーサー・ストックウイン 教授  
「日本の政党政治：時代遅れか、それとも改革への鍵か？」(写真)



- 29日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑫  
講演 北垣宗治 学長「悪からの逃走」  
新発田市公開講座⑤  
講師 本間誠治 非常勤講師  
「ITコミュニケーション」
- 30日 保護者懇談会